



メビウスの輪のように人とまちを結びあう公益信託あだちまちづくりトラスト

第5回 平成25年度 公益信託あだちまちづくりトラスト 助成活動団体成果報告会

開催日時：平成25年10月19日(土) 午後1時30分から4時30分
開催場所：東京電機大学東京千住キャンパス 100周年ホール

第1部 トラスト助成活動団体からの報告
第2部 パネルディスカッション

主催・発行：公益信託あだちまちづくりトラスト

区民のまちづくりへの機運はますます高く！

トラスト設立25周年を迎えて



したなかでトラストは今日まで運営されてきました。運営委員会としまして、この間助成メニューを増やすなど、様々な工夫を重ねながら、区民の皆様の活動が活発になるように運営に当たってきました。皆様方の運動が活発になることがトラスト活動の活性化により押し進める前提になります。このような運動がより一層盛んになれば、トラストによる成果も増えていくかと考えます。今後皆様の益々のご活躍に期待しております。

昭和三十二年といえますと、都下を含めまして市民によるまちづくり運動の気運が非常に盛り上がった時期に当り、なかでも足立区のトラストは世田谷区に次いで二番目に設立されています。こうした民間の動きと合わせて、区でも地域のまちづくりの施策がいろいろとなされてきました。こうしたなかでトラストは今日まで運営されてきました。運営委員会としまして、この間助成メニューを増やすなど、様々な工夫を重ねながら、区民の皆様の活動が活発になるように運営に当たってきました。皆様方の運動が活発になることがトラスト活動の活性化により押し進める前提になります。このような運動がより一層盛んになれば、トラストによる成果も増えていくかと考えます。今後皆様の益々のご活躍に期待しております。

成果報告会五回目の今年には二部構成となり、第一部の六団体による成果報告に続いて、第二部ではパネルディスカッションと一般参加者の方々との意見交換の場を設けまして、かなり内容が充実しましたので、皆様もどうぞ一緒にお楽しみください。

このトラストが立ち上がったのが昭和六十三年八月——一九八八年のことです、今年には二十五周年に当たります。平成二十三年までに助成した件数は一三九件のほり、助成総額は二億四千六百万円になります。二十五年にわたってこれだけの助成をしていることは、足立区の区民の方々のまちづくりに対する意識がとて高いと感じております。

さらなる市民活動に期待

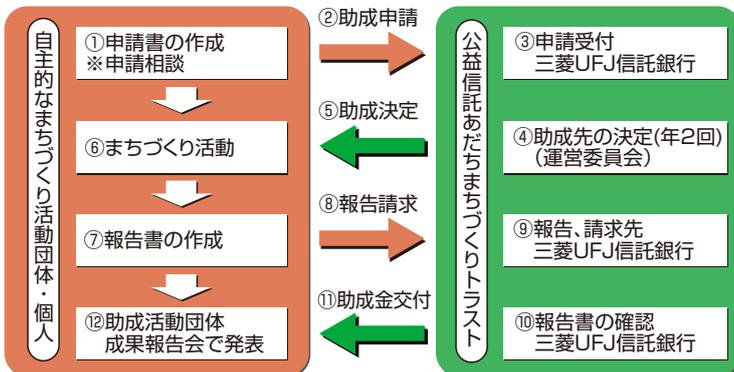
開会の挨拶

大熊喜昌運営委員長



助成団体を募集しています

■助成申請から助成金交付まで■



これまで多くの団体やグループがトラストの助成を受けて活動しています。地域の活性化をはかるためのさまざまな活動を支援するトラスト制度をふるってご活用ください。

●申請書類提出先

三菱UFJ信託銀行 リテール受託業務部公益信託グループ
Tel.03(6250)3259(直) 〒100-8212 千代田区丸の内1-4-5

●申請相談

足立区都市建設部市街地整備室 まちづくり課まちづくり支援担当
Tel.03(3880)5915(直)

消え行く蔵の魅力を記録に残す——CG化

千住345のまちの魅力を考える会（代表者 山崎次郎さん）



発表者 横手 義洋さん

町家、その背景にある蔵、それを千住の魅力として考えていこうと思います。

作業の流れは、まちの現在から環境を調査、記録していく↓調査の成果を発表するためのバーチャルなCG（コンピュータグラフィック）の作成↓もつと千住の魅力を発見するイベントの開催↓広く千住の魅力を発信、ホームページ作りです。



CG化した外観図

きることは、現存している蔵を記録していくこと。そこから蔵の魅力を発見し記録していくことではなからうかという思いで調査を続けました。

我々の今回の調査範囲は千住三丁目、四丁目、五丁目でしたが、残存の蔵数は十数棟でした。別の団体が十数年前に調査した記録がありますが、その頃と比べると、千住の旧日光街道沿いの蔵の数は半減してしまいました。千住の特徴である蔵は確実に失われつつあるというのが現状です。

所有者で蔵を大切に保存していきたいという方は残念ながらごく少数で、一番多かったのはどのようにするか未定という意見でした。たしかに蔵が私有財産である以上、今後どうなるかは所有者次第であるということになります。我々に



現存する蔵と消えた蔵



写真とCGの合成映像化

千住の蔵は街道沿いより少し奥の方へ入った所にあるのが特徴で、ランドマークとするにはかなり難しいところがあります。

現存の建物を元に、内部のバーチャル化や付属の建物や庭を再現していく作業を行ないました。その仮想の形態の中にイメージを張り付けて、いかにもそこを訪れているようなバーチャル体験をしていただくよう考えました。

こういう活動は持続させることが大切なので、以下のホームページで随時更新していくつもりです。

<http://senju345.web.fc2.com/index.html>



【講評】 中林一樹運営委員

川越の蔵と違って千住は宿場町なので蔵も実用的に見えないのですが、それを外観も内部も、CGで見てもらって、まちおこしにつながればいいですね。

中曽根城址とまちの歴史——書籍『わがまち中曽根とその周辺』

中曽根城址とまちおこし研究会（代表者 瀬田新二さん）



発表者 瀬田 勝治さん

中曽根は旧西新井村の一部で、古くから城址の言い伝えがあつて、平成八年の

発掘調査で戦国時代の堀の一部が発掘され実在したことが証明されました。その片隅にあつた妙見様は今では中曽根神社として地元の人の信仰を集めていて、お祭りや本木囃子などを通じて地元のコミュニティの中心となつていす。

地域住民も新しい方が増えており、地域の新たなコミュニティを作るきっかけとして、中曽根城址と神社にまつわる言い伝えを新しい視点で見直してまちづくりにつなげようということで、研究会を立ち上げました。平成二十二年の十月には展示会を開いて、発掘調査の際に出土した品を中心に、

神社に伝わる品を展示しました。この展示会には多くの地域住民が来場し、地域住民のコミュニティの高まりを感じました。翌二十三年にはこれを発展させて「中曽根をめぐる今・むかし」という写真展を開催しました。

足立区になって約八十年になりますが、八十年前の地



出版した書籍

域の姿を写した写真も展示できました。高齢の方が家族連れで訪れて、昔を懐かしんで家族の方に当時のことを説明したりのなごやかな光景でもおりました。来場された近藤区長さんもおもしろい話を聞かせていただきました。

これはどうしても記録に残しておかなければいけないと、三年目の昨年にはこどもたちにも我がまちの歴史を知ってもらい、愛着をもつてくれることを願って、本にして残そうということになり、トラストの支援を受けて本作りが始まりました。題は『わがまち中曽根とその周辺』としました。こうして今年の三月末には上梓の運びとなりました。

この本が地元の小中学生に愛読され、まちの歴史に興味を持ってもらえるようになればと願っております。最後になりましたが、編集に当たっては足立区地域文化課（学芸員）加増啓二氏と、荒川区立荒川ふるさと文化館（上級主任学芸員）亀川泰照氏のお二人には力強いご助言、ご指導をいただきました。



【講評】 加藤和明運営委員

昨今では町会・自治会に加入する世帯が激減しています。地域愛や地域に誇りを持つ意味で、こうした活動が地域のコミュニティづくり役に役立つと思います。

子どもたちに誇りを持ってもらおう——絵本作り

千住文化普及会（代表者 櫛原文夫さん）



発表者 櫛原文夫さん

私たちの団体は平成十八年設立以来、郷土の歴史文化の伝承を目的として、主に地元の小学校の特別教室や学芸会の演目の校閲・指導など、地元の今昔を伝える活動を行ってきました。その目的はあくまで子どもと地域、あるいは子どもと家族のきずなを我々大人が育てる手伝いをしようというものです。学校の特別授業での四本煙突の話や松尾芭蕉の話、水戸黄門の話などは、家へ帰っておじいちゃんやおばあちゃんと話の種にできることにとっても興味を持ってくれました。

このように学校へ出向いて子どもたちに直接話を伝えるほかに、絵本を作って多くの子どもたちに郷土の歴史に触れて感じとってもらおうと、今回絵本作りに挑戦しました。



絵を描いた金野和貴さん

成十八年設立以来、郷土の歴史文化の伝承を目的として、主に地元の小学校の特別教室や学芸会の演目の校閲・指導など、地元の今昔を伝える活動を行ってきました。その目的はあくまで子どもと地域、あるいは子どもと家族のきずなを我々大人が育てる手伝いをしようというものです。学校の特別授業での四本煙突の話や松尾芭蕉の話、水戸黄門の話などは、家へ帰っておじいちゃんやおばあちゃんと話の種にできることにとっても興味を持ってくれました。

このように学校へ出向いて子どもたちに直接話を伝えるほかに、絵本を作って多くの子どもたちに郷土の歴史に触れて感じとってもらおうと、今回絵本作りに挑戦しました。



『櫛かけの松』定価一五〇〇円（足立区内書店で販売）

千住には四本煙突の話など、伝承されている話はまだまだあります。今後もそのような文化や歴史を絵本にしていく活動を続けて、子どもたちに伝えていきたいと思っています。



【講評】 加藤仁美運営委員

絵本以前の特別授業の話に出た、家に帰っておじいちゃんやおばあちゃんと話はずむというところに感動しました。絵も地元の高校生と連携しながらの活動は特筆していいかと思えます。今後は聴き取り調査の折にも地元の中学生を帯同するなりして、より一層の地元の連携を進めていただけたらと思います。



まちの古老を訪ねて



櫛かけの松碑

本作りにはしろうと集団ですから、日本文作り絵本ネットワークの青木珠代さんや児童文学作家の岩崎京子さんに助力を仰ぎながら、地元



特別授業

千住にすむ人の心の温かみを伝えたい

千住河原町「OZAKI HOUSE」プロジェクト（代表者 渡部奈加子さん）

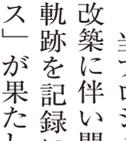


◇経緯 発表者 山中雅大さん

一九九二年四月二十五日未明、一人の青年が河原町のとある民家の庭先に迷い込みました。その名前は尾崎豊。「十代の代弁者」とも呼ばれたミュージシャンでしたが、その日の夜には都内の病院で息を引き取りました。彼の死を悼んだ多くのファンは彼の足跡をたどるようにこの家を訪れるようになり、毎日訪れるファンを心よく自宅の一室に招き入れたのが家主である小峰忠雄さんご夫妻でした。

これが「尾崎ハウス」の始まりでした。以来家屋が改築されるまでの二十年、永々と続けられました。それは小峰ご夫妻の心温まるご好意の賜物でした。それだけでなく、千住の人とまちがもつ温かみを感じさせるもので、千住の宝として伝える価値があります。これはファンによって自然発生的に生まれたコミュニティとして、二十年の長い間継続したエピソードです。

当プロジェクトは、二〇一二年に家屋改築に伴い閉鎖された「尾崎ハウス」の軌跡を記録に残すとともに、「尾崎ハウス」が果たしてきた自発的なコミュニティの役割を人々の記憶にとどめることを目的に、有志によって発足しました。



◇活動報告 発表者 渡部奈加子さん

元々有志で始めた活動でしたが、いざスタートしてみると、クリアしなければならぬ難問



千住マップ

が山積していました。人の善意に甘えるだけでなく、どうしたら心の恩返しができるだろうか。過去三回は自力で「OZAKI HOUSE」メモリアル展を開催してきましたが、今回はトラストの助成を得て、千住を訪れる人たちに、もっと千住のまちの温もりを知っていただくとうと、タウンマップの制作を行い、メモリアル展で配付しました。

ここに住む人はまちを愛している。ここを訪れる人にも、千住のまちをもっとよく知ってもらいたい、広めていきたい。来場された地元の人たちにも、まちのためになるなら協力を惜しまないと申し出てくださる方もいて、そうした地元の方の協力を得て、「千住マップ」で情報を提供しようと思いい立ちました。



【講評】 岡野賢二運営委員

松尾芭蕉などは人気のテーマですが、尾崎豊についてはこれまでになかった新鮮なテーマで、足立にまつわる多様な話題を提供して、足立をにぎわいのあるまちにすることにつながる活動でしょう。願わくは、訪れた人たちとのネットワーク作りなどへ発展できるひと工夫があればと思います。

1010(千住)ストーリーーズ—ショートムービー五編

千住ストーリーーズ製作委員会(代表者 斎藤 昇さん)



様々なジャンルで活躍する実力派アーティストたちが千住地域を舞台にした様々な「物語」で、千住の持つ魅力を映像で表現した作品を製作しました。多くの「物語」を幾重にも重ねていくことで、千住を「物語の町」に仕立てました。足立区千住地域にしかないものを表していくことで、他とはひと味違う、ここだけの千住の魅力に迫り、「物語」が持つ感動や共感といった普遍性によって、やがて千住から外の世界へと通用する価値を生み出そうとしました。

今回プレゼンテーションされたショートムービー作品は、『①おくの細道ぶりくえる』『②わが輩はぼやきネコ』『③千住の伝説者たち』『④ずっと、なかよし』『⑤千住のお化けを探して』の五編のダイジェスト版。

今後、作品は足立区内のメディアと商店や街頭に設置されたモニターで広く放映されます。千住に来なければ観られないというプレミア感による集客が期待でき、街の活性化につながります。また、継続的に物語を制作していくことで、千住を訪れる人々と千住に暮らす人たちの期待感を喚起して、街を訪れるリピーターを増やすねらいがあります。

物語を観た人の中から製作参加の希望者が出れば、それを積極的に受け入れ、さらに製作のノウハウを地域に還元していくことで、千住地域にクリエイティブな事業を創出したいと考えております。

足立区内の劇団や足立区にかかわるアーティストに参加していただいたことで、千住を中心にした文化的な展望が開け、参加したクリエイターたちがツイッターやブログで呼びかけたことにより、全国からこの企画に関心が寄せられたことはうれしい限りです。

今後は生み出されたコンテンツをいかに使って、足立区にかかわるクリエイターたちのつながりをより一層広げ、足立区の新たな文化創出にどう貢献し、特に若い世代との連携をいかに構築していくかが課題です。(ビデオレーターと報告書より)



【講評】
鯨井利昭運営委員

それぞれ千住のまちのさまざまな側面を切り取っているのでしょう。それにサーフィンの発祥地が千住だったとは話題性も高いです。ぜひ機会を得て完全版を拝見したいですね。

自主管理歩道改修整備

オーベル梅島グレースガーデン管理組合(代表者 藤本泰輔さん)



発表者
藤本泰輔さん
マンション自主管理歩道の整備について助成をいただいた成果報告をいたします。

当マンションは梅島六丁目にあり八十五世帯で居住者は約二百五十人ですが、このマンション自主管理歩道は、地域の住民をはじめ近隣町内会の人たちの多くが利用し、小学校児童の通学路としても利用されており、加えて途中にあるベンチはお年寄りの休憩所としても役立っていました。

築後十二年を経過して、この自主管理歩道がかなり傷みだして、お年寄りがつまずいたりすることも多くなり、区役所のまちづくり課へ相談にまいったところ、トラストを紹介していただき、助成を受けて改修工事の運びとなり、今年八月に整備が完了しました。今回の改修工事の後では地域住民の方から「きれいなって気持ちよく利用できる」とか、「で



通学する小学校児童



除草に励む住民

こぼがなくなつたので安心して歩ける」などの声があり、お年寄りの憩いの場としても役立ててもらっております。このベンチの所に、トラストの助成を得て改修されたむねの表示板を設置しました。

日常の管理としましてはゴミ拾いとか除草、草木への水やり、それに植栽状況の管理も行なっており、美観維持活動をしております。今日も先ほど区長さんから「見ましたよ。きれいなりましたね」とお声をかけていただきました。

まちが美しくなれば人の心もさわやかに、犯罪も減ります。我々のように事業を営んでいない団体では、トラストの助成はとても貴重で、これを先例にして、足立区全域にまちの美化活動が広がれば幸いです。



【講評】
服部仁運運営委員

本当にきれいなりましたね。近隣の方の通行利用、また子どもたちの通学路、ご近所の高齢者の方の憩いの場・語らいの場として、今後とも維持管理活動を十分に続けられるよう、お願いします。



工事が完成した歩道



表示板



八木澤秀夫信託管理人

非常に楽しく拝聴しました。今回は六団体の成果報告でしたが、やや千住に偏っていた感じを受けました。こういう活動が足立区全域に広がってほしいなと考えております。助成金は三百万円が限度ですが、三回まで助成が受けられる制度ですから、今後もぜひ有効に活用なさって、足立区全域にまちづくり活動が広まることを希望しております。



大熊喜昌運営委員長

千住の地域の方が主体となって活動している団体があり、一方にはアウトサイダーが主体となって活動している団体ありで、プロジェクトの多様性が出てきています。まちづくりは一世代で終わるものではなく、延々と未来へと引き継がれていくものですから、これまでの活動を次の世代へどう引き継いでいくかという問題にも意を配ってもらいたいと思いました。



◆区長の挨拶◆
委託者代表・足立区長
近藤やよい

まずはじめに、このたびの台風二十六号の災害では、多くの方が亡くなられました。その方々のご冥福をお祈りいたします。

私ども行政の立場からしますと、まちづくりはとても大きなテーマであり、まず行政が果たさなければならぬことは、特に今回のような大災害にあたって自分たちのまちから犠牲者を出さないということが大前提になります。その上にさまざまな生活のしやすさの施策が乗ります。またその上に、生活を向上させるための教育などの充実などがあって、はじめて足立区の顔が見えてくるわけです。今日の活動成果報告を拝聴しまして、改めてまちというものはいくら便利であつても、ただ便利だけではいけない。そこに住む人たちがそこにかかわって、少しでもまちをよくしていこう

と積極的に動いていただくこと、つまりまちとつながりを持つことがとても大切なことと再認識いたしました。私ども行政は、皆様にここに住んでいることを誇りに思っていただけですが、まちづくりを目指してはおりますが、皆様に誇りを持っていただけるまちは、ただ単に便利であるというだけではなく、自分たちでまちを良くしていくのだから、誇りや満足感が生まれてくるものだと実感いたしました。トラストは昭和六十三年から始めて、今日までに活動助成件数も一六三件となっており、さまざまな活動が脈々と続いております。私どもも努力して参りますが、区民の皆様も一人でも多く、本気になってまちづくりに加わっていただければ幸いです。お願いするとともに、今日ここにお集りの皆様には、今後も地域のリーダーとして、この活動を次の世代へ継承していくようにご活躍いただくことをお願い申し上げます。



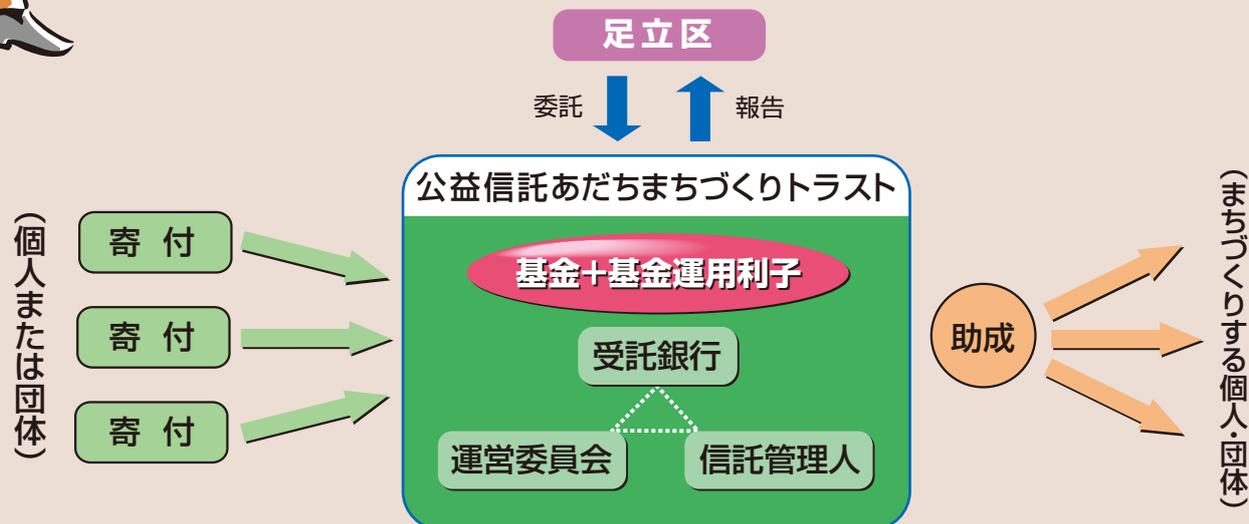
皆さんが自分たちのまちを「より快適に」「より便利に」「より安全に」変えていこうとする、自主的なまちづくり活動を支援するために「公益信託あだちまちづくりトラスト」を、昭和63年に設立しました。

これまで多くのまちづくり活動団体がトラストの助成を受け、活動しています。例えば、「まちづくりに関して調べたい、まとめたい。」(調査・研究等)「こんなものがあつたら、こんなふうになったら

まちが美しく、楽しくなる。」(公共施設内の景観整備等)、「こんな催しで、人と人とのつながりをつくりたい。」(まちづくり人育成)、「でこぼことなった自主管理歩道や老朽化した自主管理広場を改修したい。」(民地を活用した歩道区間・広場の改修整備活動)といった、自主的なまちづくりを支援します。

地域を見直し、住み良いまちづくりや地域の活性化をはかるための様々な活動を支援する、このトラスト制度をご活用ください。

あだちまちづくりトラストのしくみ



パネルディスカッション

まちづくり活動とまちづくりトラスト

(主な意見等)

パネラー…各報告団体より各二名

(千住ストリープ製作委員会を除く)

コーディネーター…加藤仁美運営委員



加藤 今日では表題のようなテーマでディスカッションを行います。皆様の積極的な意見交換をお願いいたします。

●団体同士の連携と情報の共有

加藤 まず連携と情報の共有についてどうお考えかがあります。

千住345 まちの皆様や商店街の皆様との連携に得るところがありました。そこで思うには我々大学の者としては地域の方とのコラボレーションを指して進めていく心づもりではありません。トラスト助成の決定後の準備期間をもう少し長く取れば、地元の方たちの意識の共有やそこに横たわる問題点の洗い出しなど、本格的活動に入る前にもっと時間を割けるのではないかと感じました。交流や連携をするには助走期間が短すぎたというのが、振り返ってみた感想です。

中曽根城址 私どものまちも地元の人とのコミュニケーションがだんだん薄れつつある中で、交流の場がなくなっています。また、これから先子どもたちが大人になって自分たちの住んでいるまちがどんな所か、自分のことも話してあげられなくなるのではないかと心配です。活動のなかで、中学生も連れて行って古

老の話を聴いたらどうかというご意見もいただきましたが、その古老さえだんだん少なくなり、記憶も薄れてきてしまっただけでもありません。展示会で展示した品の中に、火の見やぐらの鐘がありました。そこには資金を出した方たちの名前が彫り込んでありました。それは形ある物だからこそ今日まで残った記録です。そこで何か形のある物にして後世に残していく重要さに気付きました。

千住文化普及会 多くの方々それぞれ地域のまちおこしに活躍されています。しかし、私たちも同様ですが、他の地域のことはよく分からないのが実情



です。今後私たちは足立区全域に役立てればと考えております。そのために、他地域のグループの方々や情報交換や情報の共有を進めていきます。

昔からまちづくりには「よそ者、バカ者、若者」の三要素がそろえば成功すると言われております。最近足立区にはよそから来る方、活動力のある若い方がたくさんいます。バカ者は私たちが買って出て、情報の伝達役を引き受けます。そんな役目の活動を、これからは進めていきたいと思えます。

加藤 たいへん心強いご意見でした。次にOZAKI HOUSEの方にうかがいます。

OZAKI HOUSE マスコミが取り上げたことで逆にファンの方や地元の方々に受け入れ難い思いが強かったように感じました。そこでこの地域で活動するにあたって、周りの方々の理解や同意を得ることの大切さを痛切に感じました。

地元との連携の点では、私たちの活動だけでなくそのコンテンツを通じて他の地域の方と交流するメリットは、今回の活動を通して十分知らされました。

加藤 いろいろ昔からあるコミュニティや地元の方がおり、そこへ新たに参入されてご苦労なさったようですが、その中で若い人たちが集まれる場を創り出していく意義は大きいと思えました。

●その他

加藤 次に方向を変えまして、全体の活動に対する意見とか、マンションのことで困っているのをどうしたらいいかなどありましたら、オーベル梅島の方にうかがいます。

オーベル梅島 まちをきれいにすると犯罪が減るのは確かなことです。そのためには、住民一人ひとりが心を合わせてまちづくりに参加することが大切です。私たちの活動が先例となつて、広くまちがきれいになればと願っています。

自主管理というものはなかなか苦労が絶えません。しかし、自分たちの土地ですから日常の管理は大変ではありませんが、住民全員参加の美化運動を進めている。前向きな姿勢を見ていただきました。今後の管理にも怠りないよう努めます。

●活動進行中の中間報告

加藤 次は助成を受けて活動の進行中の方から中間報告をお願いします。

あだち中学生まちづくりフォーラム実行委員会 私どもは二十年後を見すえたまちづくりとして、中学生目線で見るとどういうまちづくりができるのか、中学生によるまちづくりを推進しております。

足立区の推進委員会が担当して、区を六つの地区に分けて各地区から一校ずつ選び、活動していただいています。この十一月にそれぞれ発表を予定しています。たとえば足立区には公園が多いけれど球技や子どもたちが遊べる公園は少ないのでこれを多くしたい、あるいは子どもが利用しやすい体育館をつくらうといった意見が出てきています。このようなことも目線からのまちづくりを目指して実行委員会が活動しているところです。

加藤 そのような活動に絵本や写真集を利用していただければ、なお一層の連携ができるのではないかと思います。

合唱組曲『五色桜』制作委員会 足立区は都内二十三区と比べても桜の多いまちです。百年前からアメリカと交流を持

つ日本の桜を代表して、足立区からアメリカへ苗木を贈りましたが、その苗木は今足立区になっている旧江北村からでした。それらの桜守の人間ドラマを次の世代へ伝えようという目的を持って、トラストの助成を受けてただ今活動しています。その活動の一環としてまず歌をつくり区民共有の財産にしようということと、それをツールとして国の内外の交流にも役立てようとしております。

ようやく曲も出来上がりまして、来年三月に区と共催で初演コンサートを開く予定です。それに先立ち合唱団員募集をいたします。歌に興味を持たれる方がお近くにおりましたら、ぜひお話しください。足立区の宝である桜の歌をみんなで一緒に歌いましょう。

加藤 今日成果報告をされた団体と、今中間報告のあった団体などがネットワークを作っていけばより大きな輪ができますし、より長く存続できるのではないかと思います。

千住いえまちプロジェクト 私たちは千住の宿場町に関心を持つ三十代、四十代の地元の若手世代中心のプロジェクトです。神社仏閣や空き家、古い建物の調査をしたり、古いお寺に集まりより若い人たちと交流する場を設けたりする活動をしております。「音まち千住」という団体や「まちのみ千住」というマチコンを行っている人たちとの交流を図り、共催イベントを開いたりしています。そういうプラットフォームになれたらと思っております。今日を機会に皆様とも交流を持ってたらと思います。

加藤 プラットフォームづくりのご提案でしたが、これについてご意見はございませんか。



千住345 私どもの調査活動と同じような活動をなさっているようですが、十数年前にも同じような調査をした団体がありましたように、トラストの歴史二十五年のデータベースのようなものがあつたら、お互いその成果を吸収しながら、さらに横の連携を深めていけるのではないかと感じました。

最近のインターネットやデータベースで情報を広げるのには慣れている世代ですが、連携を広げることになれば、トラストのデータベースも、その役割を担えるのではないのでしょうか。

加藤 たいへん貴重なご意見でした。非常に熱心な意見交換ができましたことを感謝いたします。ディスカッションは、これで終了させていただきます。ここで第二部のまとめ

を中林先生にお願いいたします。

【総括】

中林一樹運営委員



温故知新という言葉のように歴史をたどるだけではなく、古きをたずねて新しいものを創り出していく。これがまちづくりなのだと思います。

中でも私の興味を引いたのはOZAK Iプロジェクトでした。展示会場は蔵でした。最初の千住345の研究も蔵だった。その古い蔵で二つの団体の活動が重なっていた。一方は千住の南で、もう一方は北に当たりますが、北のほうの蔵でも何か活用できれば、千住で行われてきた活動が結びついて、より広く皆さんにまちづくりに関する参加や交流の場創りにできるのではないかと思います。

オーベル梅島の歩道の例にしても、改修以前にはなかった花を植えたりしたまちづくりがそこにありました。これは他のまちづくりのきっかけになるでしょう。歴史はたとえ浅くても、ねらいはますます広がる可能性を秘めています。

すべてのまちに歴史があり、すべてのまちに未来がある。それを我々が間に入ってつないでいくのがまちづくりのありべき姿でしょう。

足立のトラストが育ててきた総数は百六十件ほどになります。これをこれからどう活かすかが、皆さんからのご意見として出てきたようです。その意見を活かすために大事なことは交流であり、他の団体の活動との情報共有です。それにはまずこれまでの活動を情報化することが大切だろうと思います。情報化社会の現在、それをウェブサイトで公開することは容易です。資金面では足立トラストに

はまだ余裕があります。他にもキーを握るのは人です。幸い現在の足立区には放送大学を含めて五つの大学があります。この大学の人材とうまく連携して、まちづくりプラザが運営していけば、次の展開は夢ではなくなります。

それがまちを育てる、別の言葉でいいますとタウンマネージメントとキャリアマネージメントと言いますが、これからの成熟社会をつくる上でもキーポイントになると言われています。

それぞれの交流を通してイベントを開いてまちの皆さんが元気になる。あるいは自分のまちを再認識する。そしてどんなことがあっても足立に住み続けるという郷土愛にあふれる人たちが増えていくことが、本当のまちづくりの姿ではないかと思えます。

そんな仕組みを各団体の上に創り上げるのは二十五周年に当るトラストの使命ではないかと思えます。それを区民全体が共有する財産になる日を目指して、一日も早く実現できるよう努力します。

トラストが資金提供のベースになってここを中心に「足立トラストまちづくりプラザ」のようなものがパーチャルに、あるいは具体的に看板を持った情報の場が存在する日を夢見しています。

*** **

閉会の辞

八木澤秀夫信託管理人



今日は、トラスト二十五周年に当りましてたいへん有意義な会になりました。今後とも私どもの至らぬところはほどしご指摘いただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

このような自主的なまちづくり活動を支援しています

平成24・25年度助成団体

No	年度	団体の名称	代表者氏名	事業内容
1	24	中曽根城址とまちおこし研究会	瀬田 新二	中曽根城址とまちの歴史の調査・研究、地区内のまちおこしの啓発活動。「わがまち中曽根とその周辺」発刊。
2	24	千住345のまちの魅力を考える会	山崎 次郎	蔵を中心とした古建築の調査・研究。
3	24	特定非営利活動法人千住文化普及会	櫛原 文夫	地域に根ざした絵本制作。「槍かけの松」発刊。
4	24	千住河原町「OZAKI HOUSE」プロジェクト	渡部 奈加子	OZAKI HOUSEをきっかけに千住河原町というまちを要に足立の人とまちの温かさで心の繋がりを広めていく。「展示、イベントを開催」
5	24	千住ストーリーズ製作委員会	斉藤 昇	千住を舞台にした「物語」を映像作品として製作。
6	24	江北村の歴史を伝える会	浅香 孝子	日米桜交流100年の総括記録としての出版物の作成。
7	24	五色桜組曲制作委員会	田口 芳子	日米友好の桜100周年「区民の財産」となる合唱組曲の制作。
8	24	神明美化グループ	遠田 明子	神明南一丁目付近の首都高速道路高架橋の下の改善に向けての調査・研究。
9	25	あだち中学生まちづくりフォーラム実行委員会	米重 哲彦	中学2年生が、身近な地域のまちづくりに関する現状と課題、将来像の研究。「あだち中学生まちづくりフォーラム」開催。
10	25	千住いえまちプロジェクト	小滝 裕一郎	千住の街並みの調査・記録を通して、新たなアイデアで千住の建物や軒先の活用を研究。
11	25	オーベル梅島グレースガーデン管理組合	藤本 泰輔	平成13年12月築のマンションの自主管理歩道の改修整備。
12	25	セントエルモ綾瀬	大内 辰夫	昭和62年10月築のマンションの自主管理歩道の改修整備。
13	25	足立区の新しい環境生活を推進する会	牛込 源晃	区内で観察された「野草ポケットガイド」の作成・発刊。
14	25	千住仲町まちづくり協議会	渋谷 良治	氷川神社の御飯屋の基礎調査と組織作り。 ※御飯屋とは神輿が一時的にとどまる場所として祭りの際に臨時に建てられる建造物。
15	25	フラワーガーデンいこう	本田 博	区公園予定地を利用した、花づくりと憩いのスペースの創出。
16	25	足立一・二・三丁目地区防災まちづくり連絡会	佐藤 強士	災害に強いまちづくりのハード、ソフト両面の地域資産を長期的に継承していく。
17	25	千住ヤッチャイ大学実行委員会	清水 宏行	「音まち千住の縁」の拠点である「音う風屋(おとうふや)」(柳原二丁目)の運営に自分たちも参加し、イベントの開催、ワークショップの開催等を通して、交流の場を千住に作り出す。
18	25	ライオンズシティ綾瀬管理組合	中村 祐之	平成7年2月築のマンションの自主管理歩道の段差部分を部分改修する。
19	25	千住の鷗外碑保存会	飯島 弘	「大正記念道碑」設置場所の改修整備。